

令和4年産 大豆情報 (Vol.2)

令和4年8月18日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも!



今後のポイント: 開花期を基準に**紫斑病の適期防除**を行いましょ。病虫害・雑草防除, 排水対策の再点検

6~8月上旬の気象経過と一か月予報

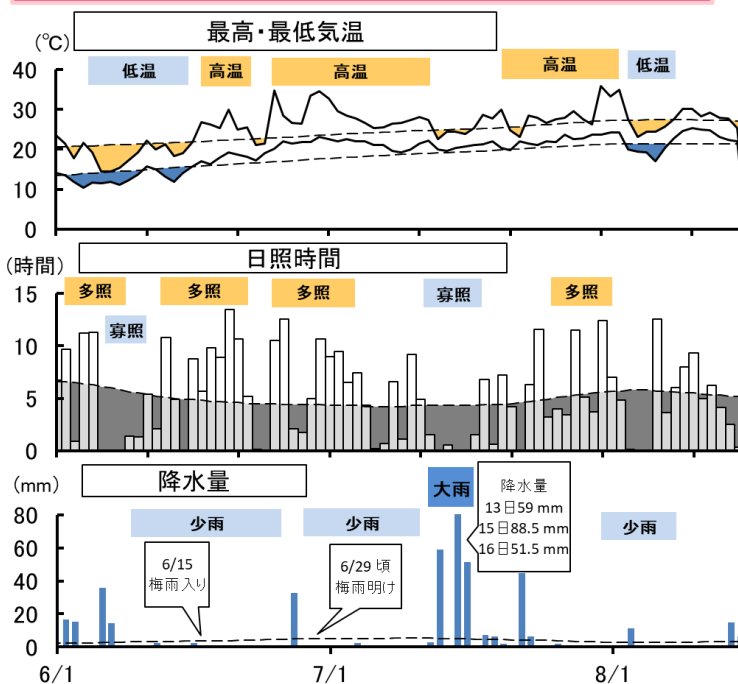


図1 気象経過 (アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量
※点線は平年値

◆7月: 気温は高く, 降水量はとても多い

・7月の平均気温は平年より+1.7℃高く, 日照時間は平年比 102 %と平年並みで, 降水量は7月中旬の大雨が影響し, 平年比 190 %と多くなりました。

◆8月上旬: 降水量, 日照時間ともに少ない

日平均気温は平年差+0.2℃とほぼ平年並み, 日照時間は平年比 74.5 %と少なく, 降水量も平年比 81.4 %と少なくなりました。

◆向こう1か月予報 (8/13 ~ 9/12)

1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%)

【気温】 20 40 40

【降水量】 30 30 40

【日照時間】 40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率 (%)

1週目 20 40 40

2週目 30 50 20

3~4週目 20 40 40

■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

生育調査結果 (8月10日)

大雨の影響で平年より生育量が小さい傾向です。

表1 開花期と8月10日の生育調査結果 (広瀨, 蛇田, 牛田は8月9日)

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日 (月日)			開花期 (月日)			主茎長 (cm)			主茎節数 (節/本)			分枝数 (本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広瀨 (河南)	6/18	+7	+3	8/01	+4	-2	45.9	-6.3	-10.1	12.5	-0.3	-0.4	1.6	-0.6	0.0
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/10	0	-3	7/30	+1	-1	36.6	-44.8	-25.7	11.2	-2.6	-1.3	1.7	-1.3	-0.8
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/22	+21	+11	8/02	+7	0	47.4	-12.4	-2.7	12.2	-1.8	-0.4	1.5	-0.6	-0.4
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/02	-7	-17	8/03	-2	-8	85.4	+6.4	+29.1	14.3	+0.2	+2.3	1.4	-1.9	-1.0
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	6/21	+14	+2	8/13	+6	+1	71.6	-6.7	+14.1	13.1	-0.1	+1.7	2.4	+0.9	+0.6

※1 平年差・比: H29~R3の5か年平均(平年値)との差・比

※2 「-」は早い, 短い, 少ない, 「+」は遅い, 長い, 多いを示す

◆開花期は, 播種時期が6月中旬までの播種であれば, 平年よりも早い傾向です。

◆主茎長, 主茎節数は河北, 桃生の試験ほ場を除くと, 平年を下回っています。

◆水沼の試験ほ場は, 主茎長, 主茎節数, 分枝数の減少が大きく, 浸水・冠水の影響が大きく影響しています。

<ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果>

◎ 紫斑病の発生が多い「タンレイ」については、**適期防除と薬剤の選定**が重要です。

◎ **プランダム乳剤25がアミスター20フロアブル**と同等の高い防除効果が得られることが確認されています(図3)。

◎ 耐性菌発生リスクがあるので、**同一剤の連用は避けましょう**。

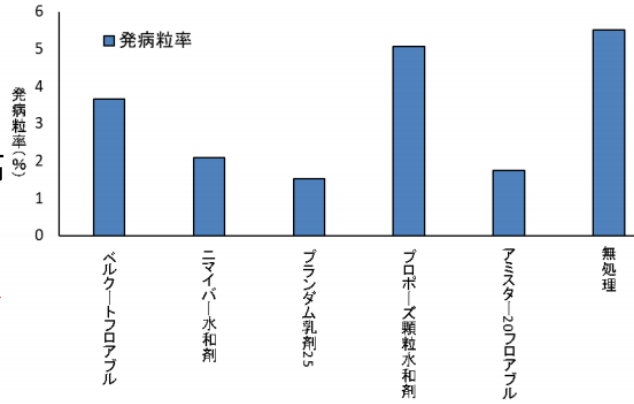


図3 供試した薬剤の発病粒率

※タンレイほ場にて開花31日後及び37日後の2回散布した試験結果

令和4年8月3日の農業登録内容を基準に作成しています。農業散布を行う場合は事前に最新情報で農業登録を確認の上、使用してください。また、農業使用の際には飛散防止対策を講じてください。

◎吸実性カメムシ類

・開花期以降に発生が見られるほ場では、着きょう期と子実肥大中期の2回薬剤を散布します。越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意してください。

主な病害虫防除薬剤は、「麦・大豆栽培技術マニュアル」(令和4年3月、編集・発行:いしのまき農業協同組合、監修:宮城県石巻農業改良普及センター)の69ページを参照してください。



宮城県「普及に移す技術」第95号

「ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果」

◆**雑草対策** **収穫時に残った雑草は汚粒の原因になり品質低下につながりますほ場に種子を残す前に対策をしましょう!**

◎ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため、非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょう。

◎ 9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリ、アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょう。

アレチウリの防除対策は「普及に移す技術第90号」に詳しい掲載されています。また、アレチウリは「外来生物法」によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも、生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意してください。



宮城県「普及に移す技術」第90号

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」

◆湿害対策

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

◆乾燥対策

◎大豆は開花期以降、大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は、落花・落きょうによる減収の原因となるので、晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し、日中の葉の反転が半分以上となるような場合には、畝間かん水や暗きよの水閘(こう)を閉じるなどの対策が必要です。